



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第4巻第
12号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第4巻第12号). 泌尿器科紀要 1958, 4(12): 726-726

ISSUE DATE:

1958-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111688>

RIGHT:

編集後記

泌尿器科講座の独立が主張せられてから既に年久しいが、その後はあまり着々と実行されているとは云えない状態である。やはり泌尿器科関係者は不断の努力と運動を続けてゆく必要がある。目下医学教育制度審議会に於て、講座の在り方に就ての研究調査が行われているが、かかる際には特に有効適切に働きかける事が大切である。大学に於ける講座の独立が第一に必要な事は勿論であるが、それよりも実施が比較的容易であり、且つ実効のあると思われるのは、大病院、総合病院に於ける泌尿器科の独立設置ではなからうか。現在でも既に診療科目として泌尿器科が分離設置せられている総合病院はあるが、然しその数は多いとは云えない。かなり的大病院でも皮科と一緒にあつたり或は皮泌科の全く置かれていない病院も少くない。それには色々の原因があろうが、主として病院の経済的の考えに依るのであると思われ。然しよく考えてみると、皮泌科が一科で医長一人である場合に、皮泌科を分離して科長を1名増しても、人件費は問題になる程多くを要しない。設備の点からも特に困難な事は生じないであろう。然も両科専門の科長が別々に居ると云うことになれば病院の資格も向上し、患者が増し、病院の収入は増すことは明らかである。即ち泌尿器科を独立させて科長を1名増した事によつてプラス・マイナス差し引きすると、プラスの面が大きいことは確実である。同様にして皮泌科が一科で科長1名、医員1名の病院にては皮泌科を分離し医員を科長に昇格させても、人件費の膨張は知れたものである。又今まで皮泌科の設置されていない病院にては、これを置くことによつて病院のプラスになることは上述の如くである。このような措置は大学にてはいろいろと困難な事情があろうが、大学以外の病院にては比較的容易で、実現可能ではなからうか。大学がむずかしければ一般病院が一步先きに進むことは泌尿器科学のためにも、患者のためにも、よいことであろうと思う。泌尿器科が独立して置かれていない大病院、総合病院にては大いに考えて頂きたい。

購読要項

1. 発行は毎月(年12回)とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都 4772番泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. : J. Urol., 45 : 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部